

2018年7月11日

かつての蝦夷地が 松浦武四郎により「北海道」と命名され150年 北海道が誇るアイヌ文化の魅力を発信 アイヌ民族文化ロビー展を開催中

京王プラザホテル札幌(札幌市中央区北5条西7丁目2番地1 代表取締役社長 池田純久)では、2018年7月1日(日)から8月31日(金)まで1階ロビーにて、「アイヌ民族文化ロビー展」を開催しております。

かつての蝦夷地が「北海道」と命名され今年で150年目を迎えます。今回のロビー展では北海道命名150年事業の一環として北海道が誇るアイヌ文化の魅力を発信すべく公益財団法人アイヌ民族文化財団の協力のもと、貴重な衣装や民具などを展示しております。

北海道の名付け親として知られる松浦武四郎はアイヌの人々と親交を深め、その文化を深く理解した人物でした。近年は、アイヌ文化を描いた漫画やアニメの影響でアイヌ文化への注目が高まっています。また、京王プラザホテル札幌では年々海外からのお客様を多く受け入れており、アイヌの文化を知っていただく機会の一つにさせていただきたいと考えております。

【アイヌ民族文化ロビー展】

◇開催日:2018年7月1日(日)～8月31日(金)

◇内 容:衣装、民具の展示

◇会 場:1階 ロビー ※観覧無料

◇協 力:公益財団法人アイヌ民族文化財団

■ロビー展示

<アイヌの衣服>

美しく力強いアイヌ文様を施しており、儀式の際などに着る晴れ着。本州からもたらされた木綿や、オヒョウなどの樹皮繊維など、様々な素材で作られている。

<ござ>

ガマを材料として織られ、文様部分は染めたガマを使用する。イオマンテ(熊の霊送り)などの儀式のほか、イタオマチブ(板綴り船)の帆にも利用された。

■ケース展示

<小刀>

かつては男女ともに腰から下げて携帯しており、アイヌの生活において最も身近な利器。作り手が思いおもいに様々な文様を彫り上げた。

<盆>

ニマ、イタと呼ばれる木製の平らなお盆。表面にはモレウ(渦巻き)など美しい文様が施されたものが多い。

<編みかご>

テンキグサ(別名ハマニンニク)を素材に編まれておりテンキと呼ばれるかご。小物入れや皿状などの様々な形状がある。



本件に関するお問い合わせ:京王プラザホテル札幌 営業企画

小笠原・石尾まで

札幌市中央区北5条西7丁目2番地1 TEL 011-271-9260

